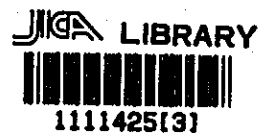


5
6
RARY

プロジェクト方式技術協力における 視聴覚機器の利用状況調査



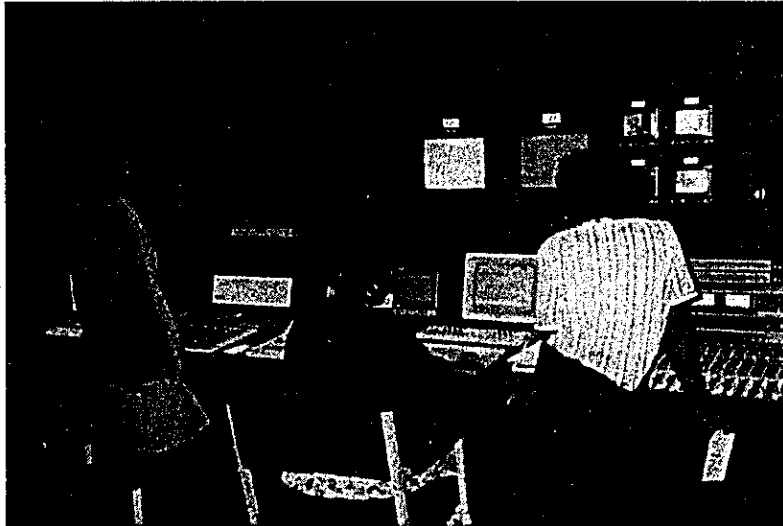
平成 4 年 8 月

国際協力事業団
国際協力総合研修所
視聴覚教材室

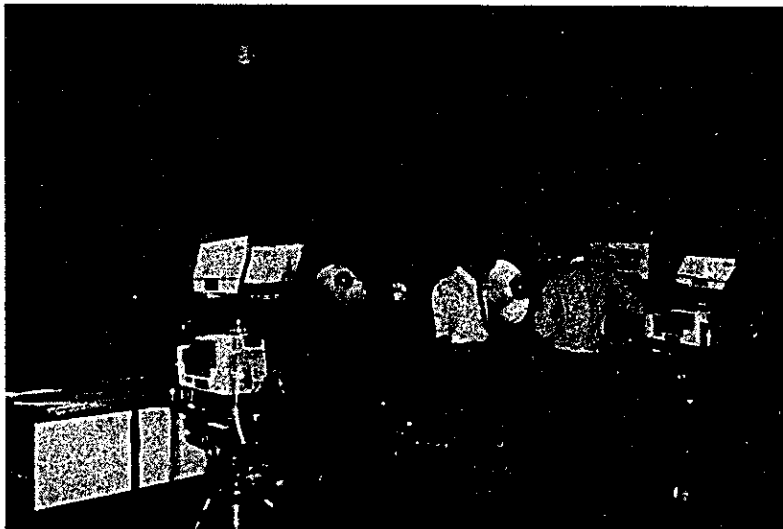
国際協力事業団
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1



国際協力事業団
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1



ケニア人口教育促進プロジェクト



ホンデュラス国立教育実践研究所 (INICE)



アルゼンティン放送技術学校 (TELESCUELA TECNICA)

目 次

| | | |
|-------------|-------|----|
| I. 背 景 | ----- | 1 |
| II. 目 的 | ----- | 1 |
| III. 方 法 | ----- | 1 |
| IV. 結果および考察 | ----- | 2 |
| V. 補足調査結果 | ----- | 16 |
| VI. 今後の課題 | ----- | 25 |
| VII. おわりに | ----- | 28 |

資料1 (各フ^oロツ¹以外の利用状況一覧)

資料2 (アンケート用紙)

(注)

本調査は国総研視聴覚室（仮称）の今後のあり方につき検討するため、アンケート調査に加えて以下の日程にて現地調査を行い、各プロジェクトにおける視聴覚機器の活用状況を調べたものである。また、本報告書における提言は、調査団限りによるものであり、その対応策については、未だ国総研にて検討中であることを申し添える。

調査期間

ア. アフリカ班 平成4年3月6日～3月20日（15日間）

（ケニア、タンザニア）

イ. 中南米班 平成4年3月30日～4月20日（22日間）

（メキシコ、ホンデュラス、アルゼンティン、チリ）

調査団員

ア. アフリカ班

鈴木 治夫（団長） 国際協力総合研修所次長

平井 朗 国際協力総合研修所人材養成課（ジュニア専門員）

山田 健 （社）国際交流サービス協会研修第一課

イ. 中南米班

吉田 昌生（団長） 国際協力専門員

浦田 俊之 国際協力総合研修所人材養成課（ジュニア専門員）

I. 背景

国際協力総合研修所視聴覚教材室（国総研視聴覚室）は、派遣前専門家への視聴覚研修の実施、各プロジェクト方式技術協力（プロジェクト）や個別派遣専門家の機材供与計画案作成の協力、視聴覚技術専門家（長期・短期）の派遣を通して、技術協力活動への支援を行ってきた。しかし、導入されている機材は無償資金協力による機材供与、プロジェクト方式技術協力の中の機材供与、また専門家の携行機材など様々であり、既存の資料では、その正確な実態の把握が困難であり、この点が支援活動の問題となっていた。

II. 目的

各プロジェクトの中で、どの様な視聴覚機器が導入され、それらの機器が十分に利用されているかアンケートによる調査を実施することによって、現状を把握し、技術支援活動を含む国総研視聴覚室の活動をさらに充実させることを目的としている。

III. 調査方法

1992年1月31日に東京で開催されたプロジェクト・リーダー全体会議において、各プロジェクトのリーダー、または調整員に視聴覚機器の利用状況に関するアンケート用紙を配布した。代表者欠席のプロジェクトにはアンケート用紙を郵送し、合計154のプロジェクトにアンケートを実施した。

記入済みのアンケート用紙は国総研視聴覚室まで返送して頂き、4月末で123件のプロジェクトから回答を得た。

また、上記のアンケート調査を補足するために、3月から4月にかけて、アフリカ（ケニア、タンザニア）と中南米（メキシコ、ホンデュラス、アルゼンティン、チリ）の2地域にあるプロジェクトを訪問し、視聴覚機器の利用状況を視察した。

IV. 結果および考察

1. 調査の対象となった123のプロジェクトの各担当部課と地域分布は表-1のようであった。プロジェクトの担当部課分けに関しては、プロジェクト・リーダー会議での企画部資料によった。農林関係はプロジェクトの数も多く、業種別に機材の利用状況の違いがあることも考えられたため、課別の細かい区分をそのまま使用した。

表-1 アンケートの回答があったプロジェクトの担当部課と地域

| 担当部 地域 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| アジア | 18 (14.6) | 17 (13.8) | 11 (8.9) | 2 (1.6) | 9 (7.3) | 2 (1.6) | 11 (8.9) | 70 (56.9) |
| 中近東 | 4 (3.3) | 3 (2.4) | 2 (1.6) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (0.8) | 2 (1.6) | 12 (9.8) |
| アフリカ | 4 (3.3) | 3 (2.4) | 2 (1.6) | 1 (0.8) | 2 (1.6) | 0 (0.0) | 1 (0.8) | 13 (10.6) |
| 中南米 | 3 (2.4) | 5 (4.1) | 8 (6.5) | 2 (1.6) | 0 (0.0) | 2 (1.6) | 4 (3.3) | 24 (19.5) |
| 大洋州 | 0 (0.0) | 1 (0.8) | 1 (0.8) | 0 (0.0) | 1 (0.8) | 1 (0.8) | 0 (0.0) | 4 (3.3) |
| 計 | 29 (23.6) | 29 (23.6) | 24 (19.5) | 5 (4.1) | 12 (9.8) | 6 (4.9) | 18 (14.6) | 123 (100.0) |

注) 担当部の略は次のようである。社会(社会開発協力部)、医療(医療協力部)、農業(農業開発協力部農業技術協力課)、畜産(農業開発協力部畜産技術協力課)、林業(林業水産開発協力部林業技術協力投融資課)、水産(林業水産開発協力部水産業技術協力課)、鉱工(鉱工業開発協力部)

2. 表-2は機器の数量とビデオ関連機器が導入されているプロジェクト数である。機材のレベルは放送用、業務用、民生用（家庭用）で分類した。機材の数量はどのレベルも社会・医療に集中している傾向がある。具体的には、放送用機材は放送教育プロジェクト、家族計画プロジェクトに集中している。業務用機材は上記のプロジェクトに加え、職業訓練関連プロジェクト、病院、医療センター、農業技術研修センターに多い。家庭用の機器は多くのプロジェクトに分散しているのが特徴である。

表-2 ビデオ関連機器の数量とプロジェクト数

| 担当部 機器 | 社会 台/数 | 医療 台/数 | 農業 台/数 | 畜産 台/数 | 林業 台/数 | 水産 台/数 | 鉱工 台/数 | 計 台/数 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 放送用レベル | | | | | | | | |
| ビデオデッキ | 31/ 3 | 12/ 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 43/ 7 |
| モニターテレビ | 12/ 2 | 26/ 1 | 0 | 0 | 1/ 1 | 0 | 0 | 39/ 4 |
| ビデオカメラ | 22/ 3 | 7/ 3 | 0 | 0 | 1/ 1 | 0 | 0 | 30/ 7 |
| 編集機 | 9/ 3 | 3/ 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12/ 6 |
| 業務用レベル | | | | | | | | |
| ビデオデッキ | 83/ 13 | 50/ 5 | 10/ 8 | 2/ 2 | 7/ 4 | 0 | 8/ 6 | 160/ 38 |
| モニターテレビ | 138/ 14 | 54/ 8 | 24/ 8 | 5/ 3 | 16/ 4 | 1/ 1 | 11/ 7 | 249/ 45 |
| ビデオカメラ | 24/ 12 | 33/ 9 | 10/ 7 | 2/ 2 | 5/ 5 | 1/ 1 | 8/ 5 | 83/ 41 |
| 編集機 | 15/ 8 | 18/ 11 | 6/ 6 | 1/ 1 | 2/ 2 | 0 | 5/ 4 | 47/ 32 |
| 家庭用レベル | | | | | | | | |
| ビデオデッキ | 95/ 20 | 171/ 20 | 25/ 11 | 5/ 3 | 11/ 4 | 6/ 4 | 11/ 9 | 324/ 71 |
| モニターテレビ | 138/ 19 | 197/ 19 | 26/ 10 | 9/ 4 | 5/ 3 | 7/ 3 | 9/ 7 | 391/ 65 |
| ビデオカメラ | 41/ 16 | 42/ 16 | 14/ 11 | 2/ 2 | 5/ 4 | 5/ 4 | 7/ 7 | 116/ 60 |
| 編集機 | 3/ 3 | 1/ 1 | 2/ 2 | 1/ 1 | 0 | 0 | 0 | 7/ 7 |

注) 数字の左側は機器の総数、右側は該当する機器を導入しているプロジェクトの数

3. スライドプロジェクター、写真用の35mmカメラ等ビデオ以外の視聴覚機器の分布が表-3である。35mmカメラ、スライドプロジェクターなど写真関連機器の分布はビデオ関連機器の分布と異なり、社会・医療のプロジェクトの他、農業、林業にも分散している。また、テレビ・録音スタジオの分布は、放送局用ビデオ機材の分布と比較的一致している。

表-3 ビデオ以外の視聴覚機器および視聴覚施設の数とプロジェクト数

| 担当部 機器 | 社会 台/数 | 医療 台/数 | 農業 台/数 | 畜産 台/数 | 林業 台/数 | 水産 台/数 | 鉱工 台/数 | 計 台/数 |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| OHP | 125/ 24 | 71/ 22 | 44/ 16 | 6/ 4 | 12/ 9 | 6/ 4 | 26/ 13 | 290/ 92 |
| カメラ (35mmなど) | 56/ 24 | 96/ 25 | 49/ 19 | 5/ 3 | 45/ 10 | 5/ 4 | 19/ 11 | 275/ 96 |
| スライド プロジェクター | 58/ 23 | 96/ 21 | 48/ 17 | 2/ 2 | 16/ 10 | 5/ 2 | 14/ 11 | 239/ 86 |
| 映写機 (16mm/8mm) | 26/ 13 | 15/ 10 | 11/ 9 | 1/ 1 | 5/ 4 | 4/ 2 | 0 | 62/ 39 |
| テレビスタジオ | 9/ 7 | 2/ 2 | 1/ 1 | 0 | 1/ 1 | 0 | 2/ 2 | 15/ 13 |
| 録音スタジオ | 8/ 6 | 3/ 3 | 1/ 1 | 0 | 2/ 2 | 0 | 1/ 1 | 15/ 13 |
| 暗室 | 12/ 10 | 11/ 7 | 8/ 8 | 2/ 2 | 6/ 6 | 0 | 3/ 3 | 42/ 36 |
| その他 | 22/ 9 | 31/ 14 | 20/ 12 | 1/ 1 | 16/ 6 | 1/ 1 | 15/ 9 | 106/ 52 |

注) 1. 数字の左側は機器等の総数、右側は該当する機器を導入しているプロジェクトの数
 2. 「その他」としてグラフィック用コンピュータ、印刷機、コピー機器が含まれている。

4. 機器導入の目的を回答の多い順でまとめると教材の提示、作成、そして普及・広報の手段とする回答が上位を占めた。次に記録や調査研究が挙げられている。

表-4 機器導入の目的（複数回答）

| 担当部 目的 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 教材 | 22 (75.9) | 25 (86.2) | 17 (70.8) | 4 (80.0) | 7 (58.3) | 4 (66.7) | 12 (66.7) | 91 (74.0) |
| 普及・広報 | 17 (58.6) | 21 (72.4) | 18 (75.0) | 4 (80.0) | 8 (66.7) | 3 (50.0) | 11 (61.1) | 82 (66.7) |
| 記録 | 10 (34.5) | 20 (69.0) | 12 (50.0) | 2 (40.0) | 7 (58.3) | 3 (50.0) | 8 (44.4) | 62 (50.4) |
| 調査研究 | 10 (34.5) | 17 (58.6) | 11 (45.8) | 1 (20.0) | 8 (66.7) | 1 (16.7) | 7 (38.9) | 55 (44.7) |
| 放送 | 2 (6.9) | 6 (20.7) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 2 (16.7) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 10 (8.1) |
| その他 | 2 (6.9) | 2 (6.9) | 2 (8.3) | 0 (0.0) | 1 (8.3) | 0 (0.0) | 3 (16.7) | 10 (8.1) |
| 無回答 | 0 (0.0) | 3 (10.3) | 2 (8.3) | 1 (20.0) | 0 (0.0) | 2 (33.3) | 1 (5.6) | 9 (7.3) |
| 計 | 63 (217.2) | 94 (324.1) | 62 (258.3) | 12 (240.0) | 33 (275.0) | 13 (216.7) | 42 (233.3) | 319 (259.3) |

注) 1. 「その他」としては、セミナー開催のためとした回答が挙げられている。

2. () 内の%は調査の対象である123のプロジェクト（社会29、医療29、農業24、畜産5、林業12、水産6、鉱工18）に対してである。

5. 誰を対象として視聴覚機器を使用するかについて、カウンターパート、研修受講者等プロジェクトに直接関わる相手国側に技術移転をするために視聴覚機器が利用されていることが明らかである。

表-5 提示対象者（複数回答）

| 担当部 対象 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| カウンターパート | 23 (79.3) | 20 (69.0) | 18 (75.0) | 4 (80.0) | 9 (75.0) | 4 (66.7) | 13 (72.2) | 91 (74.0) |
| 研修受講者 | 21 (72.4) | 20 (69.0) | 15 (62.5) | 4 (80.0) | 7 (58.3) | 3 (50.0) | 13 (72.2) | 83 (67.5) |
| 相手国職員 | 8 (27.6) | 10 (34.5) | 8 (33.3) | 3 (60.0) | 9 (75.0) | 2 (33.3) | 3 (16.7) | 43 (35.0) |
| 一般大衆 | 7 (24.1) | 15 (51.7) | 6 (25.0) | 0 (0.0) | 2 (16.7) | 1 (16.7) | 3 (16.7) | 34 (27.6) |
| その他 | 7 (24.1) | 8 (27.6) | 5 (20.8) | 0 (0.0) | 2 (16.7) | 0 (0.0) | 6 (33.3) | 28 (22.8) |
| 無回答 | 1 (3.4) | 3 (10.3) | 2 (8.3) | 1 (20.0) | 0 (0.0) | 2 (33.3) | 1 (5.6) | 10 (8.1) |
| 計 | 67 (231.0) | 76 (262.1) | 54 (225.0) | 12 (240.0) | 29 (241.7) | 12 (200.0) | 39 (216.7) | 289 (235.0) |

注) 1. 「その他」の対象者として、職業訓練学校関係プロジェクトでは、生徒が挙げられていた。

2. () 内の%は調査の対象である123のプロジェクト（社会29、医療29、農業24、畜産5、林業12、水産6、鉱工18）に対してである。

6. プロジェクトにある視聴覚機器を使用して実際に制作を行なっているかどうかに関しては、全体で33.3%のプロジェクトが行なっていると回答している。

表-6 視聴覚教材の開発・作成

| 担当部 開発・制作 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 行っている | 13 (44.8) | 17 (58.6) | 5 (20.8) | 1 (20.0) | 2 (16.7) | 0 (0.0) | 3 (16.7) | 41 (33.3) |
| いない | 15 (51.7) | 12 (41.4) | 19 (79.2) | 3 (60.0) | 10 (83.3) | 5 (83.3) | 14 (77.8) | 78 (63.4) |
| 無回答 | 1 (3.4) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (20.0) | 0 (0.0) | 1 (16.7) | 1 (5.6) | 4 (3.3) |
| 計 | 29 (100.0) | 29 (100.0) | 24 (100.0) | 5 (100.0) | 12 (100.0) | 6 (100.0) | 18 (100.0) | 123 (100.0) |

7. 視聴覚技術関係のカウンターパートの有無に関しては、38.2%にあたる47のプロジェクトが「いる」と回答している。

表-7 プロジェクトカウンターパート(視聴覚技術)の有無

| 担当部 カウンターパート | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| いる | 12 (41.4) | 14 (48.3) | 10 (41.7) | 2 (40.0) | 4 (33.3) | 0 (0.0) | 5 (27.8) | 47 (38.2) |
| いない | 17 (58.6) | 15 (51.7) | 14 (58.3) | 3 (60.0) | 8 (66.7) | 6 (100.0) | 13 (72.2) | 76 (61.8) |
| 計 | 29 (100.0) | 29 (100.0) | 24 (100.0) | 5 (100.0) | 12 (100.0) | 6 (100.0) | 18 (100.0) | 123 (100.0) |

8. 視聴覚技術関係のカウンターパートがいる47のプロジェクトの内、視聴覚技術の研修に参加した経歴を持つカウンターパートがいるプロジェクト数は17で、これは調査対象となった123のプロジェクトのうち13.8%にあたる。

表-8 カウンターパート(視聴覚技術)の視聴覚技術研修歴

| 担当部 研修 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| ある | 6 (50.0) | 6 (42.9) | 2 (20.0) | 1 (50.0) | 1 (25.0) | - - - | 1 (20.0) | 17 (36.2) |
| ない | 6 (50.0) | 8 (57.1) | 8 (80.0) | 1 (50.0) | 3 (75.0) | - - - | 4 (80.0) | 30 (63.8) |
| 計 | 12 (100.0) | 14 (100.0) | 10 (100.0) | 2 (100.0) | 4 (100.0) | - - - | 5 (100.0) | 47 (100.0) |

9. 研修歴のあるカウンターパートが現在もプロジェクトで働いているかどうかに関して、17のプロジェクト内、13のプロジェクト(76.5%)で現在も働いている結果であった。視聴覚技術のカウンターパートは比較的定着率がよいといえる。

表-9 研修受講後のカウンターパート(視聴覚技術)の定着状態

| 担当部 現在 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| いる | 6 (100.0) | 5 (83.3) | 0 (0.0) | 1 (100.0) | 1 (100.0) | - - - | 0 (0.0) | 13 (76.5) |
| いない | 0 (0.0) | 1 (16.7) | 1 (50.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | - - - | 0 (0.0) | 2 (11.8) |
| 不明 | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (50.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | - - - | 1 (100.0) | 2 (11.8) |
| 計 | 6 (100.0) | 6 (100.0) | 2 (100.0) | 1 (100.0) | 1 (100.0) | - - - | 1 (100.0) | 17 (100.0) |

10. 実際のカウンターパート（視聴覚技術）の人数と視聴覚技術研修受講者数は下記表のようである。社会開発、医療関係のプロジェクトには、他の担当部のプロジェクトと比較して視聴覚技術関係のカウンターパートも多く、かつ研修受講者も多いが、プロジェクト全体の傾向としては他の業務と兼務のカウンターパートが主に仕事をしている状態である。

社会開発のプロジェクトのように、カウンターパートの平均人数が5人（兼務が2～3人、技術者1人、カメラマンまたはプロデューサーが1～2人）もいる恵まれたところもあるが、47のプロジェクト全体を見るとカウンターパートの平均人数が3人～4人で、その内訳が兼務が1～2人、専任（技術者、カメラマン、プロデューサー）が1～2人という状態である。

表-10 カウンターパート（視聴覚技術）の人数と視聴覚技術研修受講者数（複数回答）

| 担当部 カウンターパート | 社会 人(%) | 医療 人(%) | 農業 人(%) | 畜産 人(%) | 林業 人(%) | 水産 人(%) | 鉦工 人(%) | 計 人(%) |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 兼務 | 32 (266.7) | 21 (150.0) | 6 (60.0) | 1 (50.0) | 3 (75.0) | - - - | 6 (120.0) | 69 (146.8) |
| 技術者 | 12 (100.0) | 11 (78.6) | 4 (40.0) | 2 (100.0) | 1 (25.0) | - - - | 2 (40.0) | 32 (68.1) |
| カメラマン | 8 (66.7) | 9 (64.3) | 6 (60.0) | 1 (50.0) | 1 (25.0) | - - - | 2 (40.0) | 27 (57.4) |
| プロデューサー | 9 (75.0) | 14 (100.0) | 1 (10.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | - - - | 2 (40.0) | 26 (55.3) |
| 計 | 61 (508.3) | 55 (392.9) | 17 (170.0) | 4 (200.0) | 5 (125.0) | - - - | 12 (240.0) | 154 (327.7) |
| うち研修 受講者 | 17 (141.7) | 13 (92.9) | 2 (20.0) | 1 (50.0) | 1 (25.0) | - - - | 1 (20.0) | 35 (74.5) |

注) ()内の%はカウンターパートがいる47のプロジェクト数、具体的には社会12、医療14、農業10、畜産2、林業4、鉦工5に対するカウンターパートの割合である。

11. これまでプロジェクトが発足してから、視聴覚分野の専門家、具体的には制作、技術、保守、据え付け等専門家派遣の有無に関して、15のプロジェクト(12.2%)が「あった」と回答している。

表-11 視聴覚分野専門家派遣の有無

| 担当部 専門家派遣 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| あった | 7 (24.1) | 7 (24.1) | 0 (0.0) | 1 (20.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 15 (12.2) |
| なかった | 22 (75.9) | 22 (75.9) | 24 (100.0) | 4 (80.0) | 12 (100.0) | 6 (100.0) | 18 (100.0) | 108 (87.8) |
| 計 | 29 (100.0) | 29 (100.0) | 24 (100.0) | 5 (100.0) | 12 (100.0) | 6 (100.0) | 18 (100.0) | 123 (100.0) |

12. 視聴覚技術の専門家派遣がなかったプロジェクトで、今後派遣を希望するかどうかを調査した結果、27のプロジェクト(25.0%)が希望すると答えている。しかし、派遣を希望するが、実際問題としてプロジェクトで短期専門家の枠がとれるかどうか疑問であるとした回答もいくつかあった。

一方、希望しないと答えた主な理由は、「プロジェクトに視聴覚機材がほとんどない」、「機材のレベルが家庭用なので自分達で十分使いこなしている」等であった。

表-12 視聴覚分野専門家派遣の希望

| 担当部 派遣を希望 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| する | 5 (22.7) | 4 (18.2) | 4 (16.7) | 2 (50.0) | 4 (33.3) | 2 (33.3) | 6 (33.3) | 27 (25.0) |
| しない | 17 (77.3) | 17 (77.3) | 18 (75.0) | 2 (50.0) | 6 (50.0) | 3 (50.0) | 11 (61.1) | 74 (68.5) |
| 無回答 | 0 (0.0) | 1 (4.5) | 2 (8.3) | 0 (0.0) | 2 (16.7) | 1 (16.7) | 1 (5.6) | 7 (6.5) |
| 計 | 22 (100.0) | 22 (100.0) | 24 (100.0) | 4 (100.0) | 12 (100.0) | 6 (100.0) | 18 (100.0) | 108 (100.0) |

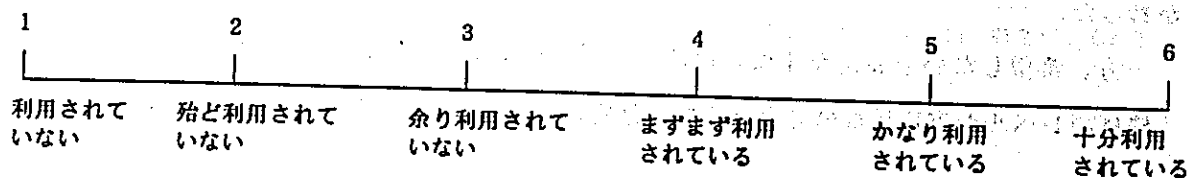
13. 各プロジェクトでの機器の利用状況は6段階スケールで自己申告によるものである。全体の6割がその利用頻度は異なるにしろ機器が利用されていると回答している。無回答または利用されていないと回答したプロジェクトの中には、開始されたばかりで機材がまだ届いていない、新たに申請中等の例がかなり含まれている。

この自己申告によれば、プロジェクトに導入された視聴覚機器はよく利用されているといえる。

表-13 機器の利用状況

| 担当部 利用状況 | 社会 数(%) | 医療 数(%) | 農業 数(%) | 畜産 数(%) | 林業 数(%) | 水産 数(%) | 鉱工 数(%) | 計 数(%) |
|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 1 | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 2 (8.3) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 2 (1.6) |
| 2 | 3 (10.3) | 1 (3.4) | 2 (8.3) | 0 (0.0) | 1 (8.3) | 0 (0.0) | 1 (5.6) | 8 (6.5) |
| 3 | 6 (20.7) | 6 (20.7) | 3 (12.5) | 1 (20.0) | 1 (8.3) | 2 (33.3) | 4 (22.2) | 23 (18.7) |
| 4 | 9 (31.0) | 11 (37.9) | 10 (41.7) | 2 (40.0) | 3 (25.0) | 1 (16.7) | 4 (22.2) | 40 (32.5) |
| 5 | 9 (31.0) | 5 (17.2) | 4 (16.7) | 1 (20.0) | 3 (25.0) | 1 (16.7) | 4 (22.2) | 27 (22.0) |
| 6 | 2 (6.9) | 1 (3.4) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 2 (16.7) | 0 (0.0) | 1 (5.6) | 6 (4.9) |
| 無回答 | 0 (0.0) | 5 (17.2) | 3 (12.5) | 1 (20.0) | 2 (16.7) | 2 (33.3) | 4 (22.2) | 17 (13.8) |
| 計 | 29 (100.0) | 29 (100.0) | 24 (100.0) | 5 (100.0) | 12 (100.0) | 6 (100.0) | 18 (100.0) | 123 (100.0) |

注) 利用状況は利用度を6段階に分けて申告されたものをまとめた。各段階は下記のようなものである。



14. 機器利用の問題点は94のプロジェクト(76.4%)から複数の問題が寄せられた。問題点を頻度順にまとめてみると、部品の入手困難や代理店の不足など保守に関する問題が5割を越えている。つまり、プロジェクトで導入した機器を利用して行く上で、維持と修理が一番の問題となっているといえる。

次に問題となっているのが機材が置かれている状況で、頻繁にある停電、不安定な電圧、エアコンディショナーの不備等途上国での問題が浮き彫りになっている。

第3の問題として、人員の不足が挙げられている。具体的には「機器の操作に精通したカウンターパートがない」、また「指導できる日本人専門家がない」がその主な理由になっている。

第4として機材のソフトウェアに関する問題が挙げられている。「適切な教材、ソフトがない」「消耗品がなかなか手に入らない、その消耗品を購入するための予算がない」等である。以下、表-14の様である。

その他の問題として、システム間の互換性(VHS/ β 等)、テレビ、ビデオ方式(PAL/NTSC)の差が挙げられている。例えば現地ではビデオは β が主流であるにもかかわらず、プロジェクトではVHSを主にシステムが組まれているため不都合が起きていたり、せっかくのビデオ教材もアメリカや日本のものはNTSC方式で、現地で使用できない等が挙げられていた。

表-14 機器の利用の問題点(複数回答)

| 順位 | 問題点 | 件数(%) |
|-----|------------------------------|-------------|
| 1. | 部品の入手が困難である | 37 (30.1) |
| 2. | 機材の故障を修理できる代理店がない | 32 (26.0) |
| 3. | 周囲の環境(気温、湿度、埃、電圧)に問題が多い | 29 (23.6) |
| 4. | 機材を操作できるカウンターパートが育っていない | 26 (21.1) |
| 4. | 指導できる専門家が配置されていない | 26 (21.1) |
| 6. | 現地語に翻訳された教材がなく、利用度が低い | 20 (16.3) |
| 6. | ローコストが不十分で、機材の運用が困難である | 20 (16.3) |
| 8. | 消耗品(テープ他)の入手が困難 | 17 (13.8) |
| 9. | プロジェクト関係者の機材利用への理解が不足している | 13 (10.6) |
| 10. | 機材盗難の恐れがあり、十分な利用が図れない | 11 (8.9) |
| 11. | 機材が古くなって使えない | 10 (8.1) |
| 12. | ある特定の機材が不足しているため、全体がうまく機能しない | 8 (6.5) |
| 13. | 機材の能力に見合うだけの仕事量がない | 7 (5.7) |
| 13. | 視聴覚機材を使用する必要性が余りない | 7 (5.7) |
| 15. | 研修を受けたカウンターパートが退職・転職してしまった | 3 (2.4) |
| 16. | 再生・利用したい場所に電気がない | 2 (1.6) |
| ○ | その他 | 22 (17.9) |
| ● | 特に問題なし、または機材が到着していない | 29 (23.6) |
| 計 | | 319 (259.3) |

注) ()内の%は調査の対象である123のプロジェクトに対してである。

15. ビデオ機材のレベルによってその利用状況がどの様に異なるか調べるために、以下の要領でプロジェクトを選択し、比較した。まず機材のレベル分けが比較的容易で、かつ制作をしているプロジェクトもしていないプロジェクトも複数台所有している場合が多い理由から、ビデオデッキを基準に選んだ。この条件で放送局レベルのビデオデッキを複数台（2台以上）所有する5つのプロジェクトを選択した。次にこの5つのプロジェクトを除いた残りの118のプロジェクトのうち業務用ビデオデッキを複数台所有する15のプロジェクトを選んだ。最後残り103のプロジェクトから家庭用のビデオデッキを複数台所有するプロジェクト31を選択し、この合計51のプロジェクトに関して、利用状況を比較した。

その結果、放送用と業務用の機材は、共に「まずまず」かそれ以上の頻度で利用されていることが明らかになった。家庭用の機材に関しては、「余り利用されていない」「殆ど利用されていない」といった回答も3割近く占めたが、これは放送用、業務用機器と比較して、多数の機器が広範囲にプロジェクトに導入されている理由によるものと考えられる。

表-15 機材のレベルとビデオ利用状況

| 機材のレベル 利用状況 | 放送用 数(%) | 業務用 数(%) | 家庭用 数(%) | 計 数(%) |
|----------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1 | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| 2 | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (3.2) | 1 (2.0) |
| 3 | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 8 (25.8) | 8 (15.7) |
| 4 | 0 (0.0) | 6 (40.0) | 10 (32.3) | 16 (31.4) |
| 5 | 1 (20.0) | 3 (20.0) | 9 (29.0) | 13 (25.5) |
| 6 | 3 (60.0) | 4 (26.7) | 1 (3.2) | 8 (15.7) |
| 無回答 | 1 (20.0) | 2 (13.3) | 2 (6.5) | 5 (9.8) |
| 計 | 5 (100.0) | 15 (100.0) | 31 (100.0) | 51 (100.0) |

16. 上記の基準で選択したプロジェクトに関して、ビデオ制作状況を比較した。プロジェクト内で制作を目的としている場合は、放送用レベルや業務用レベルの機器が導入されるので、放送用、業務用、家庭用の順で制作状況が悪くなることが予想されたが、結果は家庭用機器の方が業務用機器よりも制作に利用されているという状況であった。理由として誰にでも扱える家庭機器の手軽さが、アマチュア制作を可能にしていると考えられる。この結果から機器のレベルの2極分化進行しているといえる。つまり、初期段階から制作を目的とし、視聴覚技術の専門家を配備し、高度な放送用機器を導入するか、または予算、技術などを考慮して誰でも手軽に制作できる家庭用機器を中心に導入していく方式のいずれかが、これからのビデオ制作の主流になると思われる。

表-16 機材のレベルとビデオの制作状況

| 機材のレベル 制作 | 放送用 数(%) | 業務用 数(%) | 家庭用 数(%) | 計 数(%) |
|--------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| している | 4 (80.0) | 5 (33.3) | 15 (48.4) | 24 (47.1) |
| していない | 1 (20.0) | 10 (66.7) | 16 (51.6) | 27 (52.9) |
| 計 | 5 (100.0) | 15 (100.0) | 31 (100.0) | 51 (100.0) |

17. ビデオ教材の自主制作はチームワーク作業であり、カウンターパートが配属されているかどうかは鍵となる。そこで制作を実際に行なっているプロジェクトと制作を全くしていないプロジェクトに関してカウンターパートの人数を比較した。ここで制作を実施しているプロジェクトとは、1)実際に制作した作品名を記述欄に列記していること、2)その作品が既製ビデオの単なる編集コピーではないこと、3)ビデオカメラを所有し、作品を制作できる状況にあること、の3つの条件を満たしているものとした。一方、制作を実施していないプロジェクトは、回答欄に「制作していない」を選択したプロジェクトである。

上記の条件から、ビデオ制作を実施しているプロジェクトは31、実施していないプロジェクトは78であった。

制作を実施しているプロジェクトのカウンターパート数と、実施していないプロジェクトのカウンターパート数を比較してみると、有意な差はないが、カウンターパートの絶対数は2倍近くの開きがあることが明らかになった。つまり、制作を実施しているプロジェクトは平均2.4人（2人～3人）のカウンターパートを抱えている一方、制作を実施していないプロジェクトは平均0.6人（1人いるかないか）のカウンターパートしかおらず、制作を実施する場合カウンターパートの人数が重要な要素であることがわかる。

表-17 制作の有無によるカウンターパート（視聴覚技術）の人数

| カウンターパート | 制作あり 人(%) | 制作無し 人(%) | 計 人(%) |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 兼務 技術者 | 34 (109.7) | 22 (28.2) | 56 (51.4) |
| カメラマン | 16 (51.6) | 9 (11.5) | 25 (22.9) |
| プロデューサー | 13 (41.9) | 9 (11.5) | 22 (20.2) |
| | 11 (35.5) | 7 (9.0) | 18 (16.5) |
| 計 | 74 (238.7) | 47 (60.3) | 121 (111.0) |
| 内研修 受講者 | 18 (58.1) | 13 (16.7) | 31 (28.4) |
| プロジェクト数 | 31 (100.0) | 78 (100.0) | 109 (100.0) |

カウンターパート（制作あり：なし） $\chi^2 = 0.13$, $df = 3$, n. s.
 χ^2 （カイ）2乗検定の結果、自由度3 ($df = 3$)、n. s. は有意差なしを表わす

注) ()内の%は制作を実施しているプロジェクト31、実施していないプロジェクト78に対するカウンターパートの割合である。

18. 主な機器利用の問題点と特定の地域の関連を調べるために、14. で説明した発生頻度の高い7つの問題に関して、その地域のプロジェクト全体に対してどれくらい問題となっているかを比較した。

○ アジアは他の地区と比較し、プロジェクトが多いわりには問題が少ないといえる。代理店もあり、カウンターパートも配置されているようである。

○ 中近東はプロジェクトの数も少なく、問題の発生も比較的少ないようである。特に部品の入手の困難さ、悪環境の影響は他の地域と比較して少ないといえる。

アフリカは5つの地域の中で、機器にとって最も厳しい状況に置かれている。部品の入手も難しく、代理店も不足しており、環境の悪影響もある。また、多様な現地語やフランス語圏があり、翻訳教材の少なさも問題となっている。しかし、規模の大きいプロジェクトが幾つかあり、指導できる専門家やローカルコストに関する問題は比較的少ないようである。

中南米地区は、アジアについてプロジェクトの多い地域であるが、カウンターパート不足が問題となっている。しかし、部品の入手は中東と同様比較的容易な状態にある。

大洋州地区は、プロジェクトの数も4つと少なく、問題の発生率だけ判断するのは難しいが、しいて言えば指導できる専門家とローカルコストの不足が問題となっているようである。英語が比較的通じるので教材に関する悩みはないように思われる。

表-20 主な機器利用の問題点と地域

| 問題 地域 (数) | 部品 数(%) | 修理 数(%) | 環境 数(%) | C/P 数(%) | 指導 数(%) | 翻訳 数(%) | コスト 数(%) | 計 数(%) |
|--------------|--------------|---------------|--------------|---------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| アジア <70> | 19 (27.1) | 15 (21.4)○ | 18 (25.7) | 11 (15.7)○ | 15 (21.4) | 12 (17.1) | 11 (15.7) | 101 (144.3) |
| 中近東 <12> | 3 (25.0)○ | 4 (33.3) | 1 (8.3)○ | 2 (16.7) | 2 (16.7) | 2 (16.7) | 2 (16.7) | 16 (133.3) |
| アフリカ <13> | 7 (53.8)● | 6 (46.2)● | 5 (38.5)● | 3 (23.1) | 1 (7.7)○ | 3 (23.1)● | 2 (15.4)○ | 27 (207.7) |
| 中南米 <24> | 6 (25.0)○ | 6 (25.0) | 4 (16.7) | 9 (37.5)● | 6 (25.0) | 3 (12.5) | 4 (16.7) | 38 (158.3) |
| 大洋州 <4> | 2 (50.0) | 1 (25.0) | 1 (25.0) | 1 (25.0) | 2 (50.0)● | 0 (0.0)○ | 1 (25.0)● | 8 (200.0) |

注) 1. () 内の%は各地区のプロジェクト数に対応。つまりアジア70、中近東12、アフリカ13、中南米24、大洋州4である。

2. 表上部の略称は下記の問題と対応している。

部品：部品の入手が困難である

修理：機材の故障を修理できる代理店がない

環境：周囲の環境（気温、湿度、埃、電圧）に問題が多い

C/P：機材を操作できるカウンターパートが育っていない

指導：指導できる専門家が配置されていない

翻訳：現地語に翻訳された教材がなく、利用度が低い

コスト：ローカルコストが不十分で、機材の運用が困難である

3. ●：プロジェクトの数に対し、問題の発生率が最も高い地域

○：プロジェクトの数に対し、問題の発生率が最も低い地域

V. 補足調査結果

今回のアンケートを補足するため、アフリカ地区及び中南米地区の一部のプロジェクトにつき、機器利用現状の現地調査を実施した。調査したプロジェクトは必ずしも視聴覚機器が多量に導入されたものばかりでなく、また短期間に多くのプロジェクトを巡回せねばならない日程との関係で、現場の視聴覚機器を視認しただけといった場合もあるが、各状況は下記の如くである。

1. アフリカ地区

(1) ケニア

1) 感染症研究対策プロジェクト (KEMRI)

【概要】

1985年5月から5年間実施された「中央医学研究所プロジェクト」を引き継いで、同研究所の人材養成及び適正技術の開発を通じてケニアの感染症研究対策を発展させ、同国民の健康・保健衛生の改善を図る。

【利用状況】

1991年10月からフィールド活動の中で、住民対象の「衛生教育」(例：モンバサのクワレ地区など)を行なっているが、そのためのビデオ教材の制作も始めた。例えば、現在チームリーダーと公衆衛生カウンターパートの医師と助手1名の計3名は「住血吸虫症」ビデオを作成している。「人口教育促進プロジェクト (PEPP)」の協力を仰ぎながらとはいえ、何とか自力で制作を行っているので、視聴覚技術専門家の派遣や研修員を要請する考えはない。

制作機材は8mmビデオカメラと写真機のみで編集機器はないが、上述のようにPEPPの機材・人材の協力で制作は実施されている。教材提示用機材の利用度はますますとのことで、今年度はビデオプロジェクターを供与する予定とのことである。

2) ジョモケニヤッタ農工大学プロジェクト (JKUCAT)

【概要】

1980年4月からジョモケニヤッタ大学に対し、農学部3年制のディプロマ教育と工学部4年制の技術者教育の分野で協力が行なわれていたが、1988年の9月カレッジから大学への昇格により、新規に学士課程への協力が農学部3学科、工学部4学科において開始された。

【利用状況】

● 本学には特に視聴覚教室といった特別な施設はなく、10年以上の長期にわたる協力期間に供与機材または携行機材として徐々に機器を整備してきた。

● OHP・スライドなど一般的な視聴覚機器に関しては、大学としてごく普通の利用度であると思われる（但し、最近の政治情勢の悪化のため大学は現在閉鎖中であり、最近の利用度は不明）。しかし、1991年度に完成した新しい講義室（階段教室）は設計ミスのため視聴覚機器が非常に使用しづらく、評判がよいくない。

● ビデオ機器に関しては一部の学科において利用されている。建築学科ではフィールド調査のための機材として、電気学科においては主にそれ自体を（修理などの）実習用機材として、JAO(Japanese Administration Office)では訪問者へプロジェクト紹介ビデオを見せる広報機材として利用している。

● ソフトの供給は主にJICAの技術情報支援制度を利用。機材操作要員の研修や広報ビデオの制作には「人口教育促進プロジェクト」の協力を仰いできた。

● ビデオ教材の制作に関しては、今まで図書館に放置されていたS-VHS業務用カムコーダ及び編集機を利用し、開始しようという予定はある。しかし現在本学は教官数が圧倒的に不足しており、専門家は教育・研究両面でマンパワーとして期待されている。したがって今すぐ視聴覚教材作成の指導までは手が回らないので、とりあえず行事の記録等から使い始めたいというプロジェクトの意向であった。

3) N Y S 技術学院プロジェクト(NYSEI)

【概要】

● ケニアの社会的需要が高い電気工学、電子工学、機械工学、自動車工学、建設機械工学の5学科についてディプロマ課程で、中堅技術者養成を行なっている。87年4月14日、R/D署名。88年から協力開始、実質開講は89年9月である。

【利用状況】

● 本学にはマルチメディア視聴覚教室、講堂、視聴覚教材準備室等の視聴覚関連施設が完備されている。OHPは各学科で管理しており、利用度は非常に高いとのことである。また視聴覚教室は平均して週1度位利用されており、ソフトの供給は技術情報支援制度やブリティッシュ・カウンセルを利用しているが、さらにライブラリーを増やして既存の視聴覚教材利用の活性化を図ることで、独自教材作成の第一歩へ結ぶ意向である。本学においてもジョモケニヤット農工大と同じく教官の員数不足問題があり、また旧学制から新学制へのグレードアップのためのカリキュラム作成などで専門家は忙しい。しかし教科書作成に合わせた科目別ビデオ教材作成を行う強い意向はある。但し、そのためには既に旧式化している制作関連機器の拡充・更新とともに

に、現在電子工学科教員が代行している視聴覚技術カウンターパートの固定と日本での視聴覚技術研修受講が必要であろう。その上で派遣された視聴覚技術専門家には、教材開発コース等を主宰し、教材作成計画及び教材作成を指導、視聴覚ライブラリーを活性化し学生の自学自習を促進するための管理を指導すること等が望まれている。

4) 社会森林訓練プロジェクト(KEFRI)

【概要】

人口増加による薪炭資源枯渇が問題となっており、地域住民の自立的植林活動を促進するため、中央及び地域レベルで苗木生産体制の確立および住民福祉のための林業(Social Forestry)に関わる技術者等の養成とパイロット森林造成を行なう。

【利用状況】

研修は当プロジェクトの行っている事業の大きな柱の一つである。本部のあるムグガ・サイトでは森林局職員と他省庁の職員を対象に、また造林地のあるキツイ・サイトでは森林局の出先の技術者や一般大衆を対象に研修コースを行っている。

キツイは1年の内一ヶ月しか雨が降らず、植林活動はその時期にしか出来ない。そこでその僅かな降雨期の状況を映像に記録しておいて研修の中で見せる必要があり、既に多くのスライドをストックし、使用している。さらに当プロジェクトは村落林業型プロジェクトの先駆者であるので外部からの訪問者が多い。それらに対しては、同様の理由で今までに当地で数多く取材されたビデオをオリエンテーションとして提示している。しかし半乾燥地植林の資料は世界的に少ないので、今後今までにストックした資料映像を再構成するなどして、独自教材を開発する必要がある。現在、視聴覚技術短期専門家を要請しているが、これからスライド教材作成を始める予定である。

5) 人口教育促進プロジェクト(PEPP)

【概要】

西暦2千年までに人口増加率を2.5%に引き下げることを目標とし、IEC(Information, Education, Communication)活動を強化することを目的としており国家人口開発審議会(NCPD; National Council for Population and Development)の組織機能強化と同時に広報普及メディアの開発、制作を行なう。

【利用状況】

KIMC(ケニアマスコミ研究所)内に設置されたプロジェクトサイトには、放送基準に合致したベータカム方式のカムコーダ等のロケーション・システムをはじめ、A/Bロール編集室や、プリア編集機、マルチトラックMTR・アナブース等を設備したMAルームなど完全なポストプロダクシ

ョン・システムが整備されている。ここで制作された番組等は、パイロット・プロジェクトサイトであるメルー、カカメガの2地区で様々な形の視聴テスト（例：保健所などに配備するビデオ、AVバン、等々を通して）に供される方向で進んでいるが、現在は、保健婦や家族計画指導員など中堅技術者向けの「家族計画セミナー」で効果的に使用しつつ、視聴テストを行っている。

〔問題点その1：機材に関する問題〕

当プロジェクトには最高の機材が揃っているが、バックアップが不足している。そのためプロジェクト終了後のサステナビリティに対する不安がある。つまり維持のための「金」「技術」「部品」が明らかに不足している。さらにカウンターパート機関としての二つの政府機関、NCPDとKIWCの間の綱引きのため、協力期間終了後の機材の行方が不明確である。

現在とはとにかくプロジェクトの経済的自立を図るため、国際機関等の依頼で番組を制作し、収益を機材の維持・管理に充当できるよう手続きを進めている。AVバンは一応稼働しているが、現場が僻地であるため盗難に対する保安に問題があり、また発電機の燃料費がかかりすぎる等の理由で活動の持続は非常に困難な状況である。さらに搭載された機材は重くて大きすぎ、巡回活動にそぐわないし、車載設備の不備のため、現地の道路状況では機器の耐久性にも不安がある。

〔問題点その2：人事、人材、制作体制の問題〕

最初に沖縄国際センターで研修を受けたプロデューサーが退職してしまい、制作を主導できるプロデューサーが1名しかいない。早急にもう1名を育て、制作2名・保守2名・制作技術2名（これから育てる）の体制を作らねばならない。

NCPDが発注してPEPPが受注するシステムである筈なのだが、実際にはいつ、何が、どう決まったかが全く明らかでない。一つの番組のねらい・テーマ・内容等々から予算のことまでの決定がシステムティックになされることが望まれる。

〔問題点その3：メディア方略上の問題〕

そもそもビデオが本当に「普及」に最適なメディアなのか、途上国の、しかも僻地に展開するには「AVバンは金がかかりすぎる」し「機材の保安がきわめて困難」なので、協力期間終了後のサステナビリティが問題である。ビデオは確かに大変効果的なメディアではあるのだが、ケニアではラジオ、映画が主流の状態である。現在は、ビデオとプリントメディアとの関係はうまくいっている。つまり、ビデオを見せればなしにするのではなく、補助としての印刷物と組合せる。今は、これからの普及活動の展開に備え「家族計画セミナー」で使用しているプリントの内容を一般向けに易しくしたものを作成している。

(2)タンザニア

1)キリマンジャロ州中小工業開発(II)プロジェクト(KIDC)

【概要】

前プロジェクトを継続発展させるために 1)窯業研究開発センター、2)修理・保守管理センター、3)手工芸センターを設立し、工場経営を含む応用技術移転を計ることによって、キリマンジャロ州の中小企業開発に寄与する。

【利用状況】

必要に応じて使用しているが、機材盗難の可能性が大きく、管理上の問題から使用頻度は上らない。現在のトレーニングスケジュールでは月水木金曜は実地訓練を、火曜は講義を行っているので、視聴覚機器使用は毎週火曜日ということになる。

フェーズ1の時に訓練をビデオで撮影したものがあるので、外部からトレーニングに来た人にはこれを見せている。フェーズ1の頃は市販の視聴覚教材なども使ったが、今はその頃のような集団で行う職業訓練のきまったカリキュラムがある訳ではないので、使えるときに使えるところだけを使っている。講義の時にOHPを使うことがあるが、電圧変動が非常に大きいので困難を伴う。間もなく協力期間が終了するので、現状をビデオで記録する視聴覚技術短期専門家を要請したいとの意向だった。

2)キリマンジャロ農業開発計画プロジェクト(KADP)

【概要】

キリマンジャロ州総合開発計画の一環として「キリマンジャロ農業開発センター計画(KADC)」に対する技術協力を実施してきたが、その成果を基に農業技術の確立およびカウンターパート、普及員、農民等の研修を通じて技術の普及と農業開発の推進に寄与する。

【利用状況】

フェーズ1の時代には、研修コースで教材提示のためスライド映写機と16mm映写機を利用した。その当時は教室の遮光カーテンがよく盗まれたらしい。また農村普及のため16mm映写機とスクリーンを積んだ車があって、夜になると村々を巡回して、稲作に関する教材映画などを上映した。

教材の自作については、熱帯農業を扱ったソフトが少ないので、制作の意志はあったが余裕がなくて出来なかった。結局フィリピンの国際稲作研究所から教材を入手利用した。

但し、フォローアップ期間に入った現在、訓練はT/Rから外されたので視聴覚機器は利用していない。将来、かつての農民向け訓練から一歩進めた普及員クラス以上を対象にした訓練センターの計画もあるとのことだが、今迄の経験からすれば、維持・管理に困難が生じる可能性は

大であるという。

3)キリマンジャロ村落林業プロジェクト

【概要】

村落林業（薪炭林造成、アガロウストリーシステム、資材木林造成等）手法の導入による半乾燥地における森林造成を目的とし、第1期2年間で、村落林業実施に必要な地域情報を収集すると同時に、それに適した苗木の生産技術を開発する。第2期では、パイロット森林の造成を通して、半乾燥地の村落林業を実証する。

【利用状況】

調査時、プロジェクト建物の基礎工事中であった。視聴覚機器の導入に関しては、まだ検討の段階に至っていない状況である。

2. 中南米

(1)メキシコ

1)教育テレビセンタープロジェクト

【概要】

文部省教育番組制作局(UTE)および、メキシコ全国の番組制作機関の番組制作に関わる技術者、制作スタッフに対し、番組制作技術、TVカメラ技術など10コースについて訓練を実施すると同時にセンター教官に対する技術の指導も行なう。

【利用状況】

放送、録音スタジオ部分の建物が完成したばかりで、機材を据え付けるのはこれからという状況であった。しかし、専門家の部屋にはベータカム用のデッキがあり、日本から送られてきた放送番組を視聴することができるようになっている。本格的な技術指導と機器利用は、機材が据え付けられてからになると思われる。

2)地震防災センタープロジェクト

【概要】

メキシコおよび中米・カリブ諸国における地震防災に関する科学技術を体系的に研究、開発、改善、普及することを目的とし、国立防災センターに於て研究（強震観測、構造実験、土質工学）、研修、普及活動を行なう。

【利用状況】

視聴覚機器は主に教材提示、広報等に使用しているようである。現在教材の制作は行っていないが、カウンターパートの視聴覚技術研修、短期専門家による制作の指導を今後予定している。

(2)ホンデュラス

1)看護教育強化プロジェクト

【概要】

農村地域の住民に対する保健衛生サービスの充実、乳幼児死亡率低下を計る保健政策の下、1)緊急に対応が必要な分野における看護教育の理論および方法の改善、2)看護教育カリキュラムの改善、3)農村および都市周辺部における実践教育技術の改善、強化、4)看護教育技術の改善、5)看護教育用のテキストの開発、改善を目的として実施する。

【利用状況】

講義等の記録を手軽に残す手段として、家庭用の8mmビデオカメラ、写真機をカウンターパートと共によく利用している。撮影したビデオは、専門家同士で批評し合い制作技術の向上に心がけている。また、写真はプロジェクトの記録としても整理されている。

(3)アルゼンティン

1)包装技術プロジェクト

【概要】

立ち遅れている包装技術の向上を目的とし、国立工業技術院(INTI)内のパッケージングセンターにおいて、デザイン、プロセスエンジニア、品質管理、保存・操作・輸送の工程別による技術移転を実施する。

【利用状況】

視聴覚機器は会議室に備え付けられており、電子黒板、家庭用ビデオ、OHPなどが主なものである。ビデオ制作に関しては、外部のプロダクションに発注して制作している。

(4)チリ

1)植物遺伝資源プロジェクト

【概要】

作物品種改良の効率化により、農業生産性の向上に寄与することを目的として、ベースバンク、アクティブバンク等の施設建設、植物遺伝子源、バイオテクノロジーの利用、情報・研究成果の交換に関して技術協力を実施する。

【利用状況】

機材は記録用の写真機が中心であった。家庭用のビデオとテレビ一式が会議室に備え付けられており、研究資料ビデオの再生に利用されている。

2)消化器がんプロジェクト

【概要】

消化器がんの検診および治療技術の向上を計ることを目的に、1)画像診断、2)病理診断、3)外科治療、4)放射線治療、5)内科治療等の分野で技術協力を実施する。

【利用状況】

プロジェクトとして特に視聴覚機器は導入しておらず、病院内の研修のための中教室に古い家庭用ビデオが一式セットされているだけである。現在、新しい病棟を建築中であり、そこにはある程度の機器が入る予定である。

(5)その他無償資金供与関連機関

ホンデュラス国立教育実践研究所(INICE)

【概要】

日本の無償資金供与により、教員再教育のための研修を実施し、教育の質の向上を目ざして、研修棟、研究棟、体育館からなる国立教育実践研究所が建設された。

【利用状況】

放送用レベルの機材と施設が完備した研究所では、数名のカウンターパートと日本人専門家および協力隊を中心として、理科の実験番組やアニメーション教材等が制作されている。日本で視聴覚技術の研修を受けたカウンターパートもあり、機材はよく利用されているようである。機材の整備状況もよかった。しかし、ローカルコスト不足と代理店がないために、部品や消耗品の調達が問題となっている。

アルゼンティン放送技術学校(TELESCUELA TECNICA)

【概要】

唯一の政府通信教育機関として、ラジオ・テレビ教育番組を制作しているが、1985年にVTR、カメラ等の機材が供与された。化学、物理学、自動車（機械および電気）に関する視聴覚教材の制作を実施している。

【利用状況】

機材は放送用レベルのものが配置され、積極的な制作活動を行っている。古い機材にも関わらず、よく保守が行き届いている。現在は日本人の専門家は配置されていないが、日本で視聴覚技術研修を受けたスタッフ8名が中心となって、定期的番組制作、および特別番組の制作を実施している。

VI. 今後の課題

現在、国総研視聴覚室が実施している業務を概括しながら、各プロジェクトが国総研視聴覚室に期待する今後の支援活動に関して検討した。

まず、国総研視聴覚室が行っている業務は以下(a)～(k)の通りである。

- (a) 派遣前専門家集合研修、技術協力専門家養成研修における視聴覚技術研修の実施。
- (b) 専門家、技術研修員、等に対する視聴覚個別技術研修の実施。
- (c) 調査研究業務(1)：国際協力及び途上国情報収集としての映像情報の収録と加工。
- (d) 調査研究業務(2)：プロジェクト方式技術協力における視聴覚機器利用状況調査の実施。
- (e) 職員、国際協力専門員等への機材貸出サービス。
- (f) 職員、国際協力専門員等への映像複製サービス。
- (g) 職員、国際協力専門員等への映像制作技術支援。
- (h) 視聴覚技術研修等で使用するテキスト、教材の作成。
- (i) 国総研、各事業部、在外等で使用する視聴覚教材、広報ビデオ等の作成。
- (j) 供与機材、携行機材の中の視聴覚機材に関するコンサルティング業務。
- (k) 短期または長期で派遣され、現地で教材作成等を指導する視聴覚技術専門家業務。

今回アンケートの記述式回答から、各プロジェクトが国総研視聴覚室に期待する支援活動を6項目にまとめた。

1. 新しい視聴覚機材の情報提供

これはカタログを送ってほしいというもので、国際協力総合研修所技術情報課(国総研技情課)の行う技術情報支援のひとつと考えられるが、専門家からメーカーに直接請求できるものでもある。海外での新製品情報不足を補うために、ビデオ雑誌の定期購読等が勧められる。一方で「メーカーのカタログ請求先一覧」などの情報を「視聴覚メディアハンドブック」改訂版の付録として添付する予定である。また、機材選択のための助言は現在も視聴覚室で個別に実施しているので、そのサービスを更に一層アピールする必要もあろう。

2. 視聴覚教材の情報提供

具体的には専門分野別のビデオソフトに関する情報を提供して欲しいというものであるが、この業務も技情課の「技術情報支援」に含まれる。機材の情報提供についてもいえることだが、国総研が専門家に対するこうした情報提供サービスを行っていることを、派遣前研修などで一層周知徹底させる必要があるように思われる。

3. 視聴覚教材の方法変換サービス

既に複数のプロジェクト（例：マレーシア放射線利用研究等）から要望が出ているが、日本製ビデオ教材を使用して指導するため、現場において現地のテレビ放送方式に変換する需要が増大している。そこで、NTSC以外のテレビ方式を採用している各国の、ビデオ教材を利用してプロジェクトや少なくともJICA事務所には「（テレビ方式簡易変換機能付き）全世界対応ビデオ」を速やかに配備すべきであろう。

一方国内では、沖縄国際センターで変換業務を行っているが、既に需要過多の状態になってきている。方式変換と言っても、要請の多くは「在外で PAL方式で録画されたビデオテープを国内で見たい」という程度のものなので、各事業部等に「マルチ方式ビデオ・TV」や上記の「全世界対応ビデオ」を配備すれば、殆どの場合に対応できると考えられる。しかし制作したマザーテープの方式変換等、本格的な変換業務への対応も重要であり、国総研としても取り組むべき時にきている。その為に機材・人員の両面での対応（予算措置）が望まれる。

4. 視聴覚技術専門家による制作指導と教材開発

視聴覚教材室の中心業務のひとつであり、現在まで多くの要請に応じてきた。今回のアンケートの結果を見ると、27のプロジェクトが何らかの形で視聴覚技術専門家の派遣要請を考えており、更にその約半数は緊急度・切実度の高いものである。しかし各プロジェクトには「専門家の枠」があり、一方で、視聴覚室のスタッフにも限りがあるので、より効率的な下記派遣方法を考える必要がある。

1) 視聴覚技術（制作）専門家の巡回指導

視聴覚技術専門家の派遣要請または要望が出ているプロジェクトが複数存在する国（例：中国3件、タイ3件等）に視聴覚技術専門家を派遣し、各プロジェクトを巡回指導する。

2) 派遣専門家に対する現地での「視聴覚セミナー」の開催

視聴覚機器の配備されたプロジェクトから受講を希望する専門家を集め、視聴覚技術研修を当該国において実施する。

3) 上記1)、2)の組合せ

勿論プロジェクトの内容によっては視聴覚技術専門家が特定プロジェクトに長期派遣されるべき場合もあるが、通常上記方法による専門家派遣と後述の研修員受入を有機的に組合せるならば、極めて効率的な「視聴覚メディア利用」の技術移転が可能であると考えられる。今後さらに積極的に各プロジェクトを支援するための具体的方策や予算手当に関して検討して行くことが必要である。

5. 機材修理専門家による調整・修理

実際のプロジェクトの現場には殆どの場合、数社のメーカーの製品が混在しているので、一つのメーカーの技術者を一つのプロジェクトへ派遣しても非効率な場合が多い。したがって、制作の場合と同じく巡回指導方式の専門家派遣が妥当であろう。但し、事前に現場の機器のメーカー名・型式・型番等を綿密に調査し、適正な部品を準備することと、適格な専門家（機材に適合するメーカーの技術者）をリクルートし、必要とあらば数社の技術者をチームで派遣することが必須である。

6. カウンターパートの視聴覚技術研修

教材等の自主制作を実施しようとしているプロジェクトの場合でも、専門家の枠や予算の関係で、視聴覚技術の長期・短期専門家の要請が不可能な場合が多い。この場合、有能な視聴覚技術のカウンターパートが多くいることが有効な手段となる。調査結果（表-17）からも明らかなように、制作を実施しているプロジェクトは、実施していないプロジェクトと比較してカウンターパートの数で2～3人の開きがある。さらに視聴覚技術カウンターパートのいる47のプロジェクトの内、30のプロジェクトのカウンターパートは視聴覚技術研修を受けたことがない（表-8）。そして現状では119人の視聴覚技術のカウンターパートが視聴覚技術研修を受けていない（表-10）。したがって、こうしたカウンターパートのための視聴覚技術研修コースを新設することが望まれる。

現在、沖縄国際センター(OIC)では視聴覚技術の研修を実施している。内容は集団研修(1)視聴覚技術コース(3ヶ月強、8名)、(2)サウンドスライド制作コース(3ヶ月半、9名)、(3)ビデオ制作コース(5ヶ月、9名)を年間各1回実施している。集団コースの定員に空きのある場合は、カウンターパート研修の研修員を若干名参加させることはあるようだが、通常、カウンターパート研修の受入は個別研修形式で年間僅か3～5名であり、需要に見合う体制とは到底考えられない。しかし、環境・設備・スタッフ等の現状を考えるならば、沖縄国際センターにカウンターパートのための特設研修コース(例えば定員10名程度、3ヶ月のコース)を新設するのが最適であると考え。国総研視聴覚室は、沖縄国際センターと連携してコース実施のための人的支援等を行うことを検討している。

VII. おわりに

今回の調査の実施を通して、我々が課題として考慮したのは、(1) プロジェクトの実状に即した供与機材選定のあり方を探る。(2) 専門家派遣と研修員受入の組合せによるプロジェクト運営の効率化を考える。(3) その為、沖縄国際センターなどの研修機関と提携して、効果的な研修方法、研修期間等について考える。(4) 一方で、視聴覚技術専門家のあり方(人員、より専門化された指導分野、派遣期間、さらに同一地域の複数プロジェクトへの横断的派遣の可能性等)について検討する。(5) 技術移転を効率化するメディア利用の事例研究を行う、等の点であった。

視聴覚技術の分野を管掌する事業部はないが、視聴覚機器は非常に広範囲に利用されており、その状況を調査・研究するにはJICA全体への横断的認識が必要と考えられた。しかし実際に調査を行ってみて、さらに明確になったことは、視聴覚技術に関する「情報」「人材」「バックアップ体制」等、様々なものが不十分なことである。したがってここで提言するのは、個々の事業部から独立した国総研視聴覚室の充実であり、前項の提案に加うるべき将来像である。

- 1) プロジェクト方式技術協力における視聴覚機材の現状は、今回初めて明らかになった。この調査結果を基に、国総研視聴覚室は今後の機材供与に関して、的確なアドバイスを行う機能を強化する。
- 2) 総務部広報課を含む各事業部、国内各機関、在外事務所を結ぶ視聴覚技術のネットワークを構築し、その中で情報の発信基地となる「JICAの視聴覚センター」を目指す。
- 3) 国際協力専門員、ジュニア専門員を含めた視聴覚技術専門家の確保、及び専門家候補者のネットワーク作りを推進する。
- 4) 個別派遣、プロジェクト派遣、「巡回指導」等の「視聴覚技術専門家の基地・母港」としての機能を強化する。
- 5) 各視聴覚機器メーカーとの情報交換を密にする。メーカー側に情報を要求するとともに、途上国の実状に即した機器導入がなされるよう、在外の現場と協力して積極的に提言を行う。
- 6) 派遣専門家向け視聴覚技術研修を充実する。例えば派遣前集合研修では、既存の教材を提示するために視聴覚機器を利用するグループと、教材の自主制作も行うグループとを別な形で研修する、二方向を目指す。アンケート・現地調査の結果を研修へフィードバックし、内容の向上に活かす等である。

今回の調査は「全世界のプロジェクトを」「横断的に」「直接」調査したという点で画期的

なものと考える。常に始まるプロジェクトと終るプロジェクトが混在している現状では、少なくとも機材とその利用状況のアンケート調査は今後も定期的に継続すべきであろう。また今回は時間の関係で割愛せざるを得なかったが、視聴覚機器利用の「事例研究」を現地調査によって実施すべきであり、次回に譲るものとしたい。

この調査は現状の把握によって視聴覚技術とその環境（視聴覚機器、視聴覚機器のあるプロジェクト、視聴覚技術専門家、視聴覚技術カウンターパート、国総研視聴覚室等）のあり方を建設的に検討しようという、実践的なものであることを御理解頂き、今後のより効果的・効率的な視聴覚機器利用による技術協力活動の一助とされたい。

資料1：各プロジェクトの利用状況一覧

各プロシエクトの現況(現機研用)状況

| 番号 | 地域 | 国名 | アワード | 担当: 放送子 | 担当: 産子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | 担当: 子 | |
|----|-----|--------|-------------------|--------------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 1 | アジア | インドネシア | バンガラディ | バンガラディ 動物園、動物心臓抑制剤(中) 医療 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 2 | アジア | インドネシア | バンガラディ | 農業大学院(III) 農業 | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | アジア | インドネシア | シニ | 農業技術センター 農業 | 0 | 2 | 3 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 4 | アジア | インドネシア | スマンマ | 中央林業局調練センター 農業 | 0 | 2 | 7 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 5 | アジア | 中国 | 通海英通管理幹部訓練センター | 社会 | 0 | 5 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | アジア | 中国 | 中日友好病院 | 医療 | 1 | 9 | 5 | 0 | 25 | 0 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 7 | アジア | 中国 | 媒体検査者(PAC)研修研究(中) | 医療 | 0 | 0 | 42 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 8 | アジア | 中国 | 中日医学教育センター | 医療 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | アジア | 中国 | ボリ才編設計画 | 医療 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | アジア | 中国 | 北京遠隔研究センター | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | アジア | 中国 | 黄土高原植山技術訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | アジア | 中国 | 福建省林業技術訓練 | 農業 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | アジア | 中国 | 福建省林業技術訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | アジア | 中国 | 上海現代金型技術訓練センター | 工業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | アジア | 中国 | 燕山朝陽応用研究機関 | 工業 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | アジア | 中国 | サンシヤイカバシ | 工業 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | アジア | インドネシア | 高等教育関係計画 | 医療 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 18 | アジア | インドネシア | スラバヤ電子工学ポリテクニク | 社会 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 19 | アジア | インドネシア | 水産環境衛生訓練センター | 社会 | 0 | 0 | 15 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 20 | アジア | インドネシア | 高分子材料研究 | 社会 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 21 | アジア | インドネシア | 生ワクチン製造訓練センター | 社会 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 22 | アジア | インドネシア | ラジオ・テレビ放送訓練センター | 社会 | 24 | 11 | 22 | 0 | 45 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 23 | アジア | インドネシア | 家族計画・母子保健 | 医療 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 24 | アジア | インドネシア | ボゴール農科大学大学院 | 農業 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 25 | アジア | インドネシア | 農業関係(中)訓練(II) | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 26 | アジア | インドネシア | 南東スラウエシ州農業農村協会の | 農業 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 27 | アジア | インドネシア | 農業人工投資センター強化 | 農業 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 28 | アジア | インドネシア | 農業関係(中)訓練(II) | 農業 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 29 | アジア | インドネシア | 南スラウエシ州山道林 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 30 | アジア | インドネシア | エビ養殖 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 31 | アジア | インドネシア | 農業関係(中)訓練(II) | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 32 | アジア | インドネシア | 石海・アムンタラ | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 33 | アジア | インドネシア | 段坑坑内作業環境改善 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 34 | アジア | 韓国 | 農産物高産利用研究 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 35 | アジア | 韓国 | 放射線利用研究 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 36 | アジア | 韓国 | アセアン農業研究訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 37 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 38 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 39 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 40 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 41 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 42 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 43 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 44 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 45 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 46 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 47 | アジア | 韓国 | 調査訓練 | 農業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

SEIRE, TEL. 02年 8月20日 15:29

各プロシエクトの視聴覚機器利用状況

※ 評選要項: 利用状況: 機器の問題: コメント: 機材が: AV専門家によるソフト開発/消耗品の補充

| | | | | | | | | |
|----|------|---|------|---|------------|-------------------------------|----|----|
| 1 | スキップ | 2 | しない | 5 | aelj | 0 | ない | ない |
| 3 | しない | 3 | しない | 3 | q | システムの互換性がとれていない | ある | ある |
| 4 | 無回答 | 4 | 無回答 | 4 | bedefklno | 取扱いの整備と部品の入手を希望 | ない | ない |
| 5 | しない | 5 | しない | 5 | 0 | 0 | ある | ある |
| 6 | しない | 4 | しない | 4 | br | 医学教材の備蓄、日本での方式変換業務希望する | ない | ない |
| 7 | する | 5 | する | 5 | clng | AV専門家によるソフト開発/消耗品の補充 | ない | ない |
| 8 | する | 4 | する | 4 | be | 定期的なAV情報ほしい | ある | ある |
| 9 | しない | 4 | しない | 4 | b | 0 | ある | ある |
| 10 | しない | 4 | しない | 4 | q | AV機器を早期に導入、整備すべきであった | ない | ない |
| 11 | 無回答 | 5 | 無回答 | 5 | 0 | 0 | ある | ある |
| 12 | する | 2 | する | 2 | bedefjkl | AV専門家による巡回指導を希望 | ない | ない |
| 13 | しない | 0 | しない | 0 | 0 | 0 | ない | ない |
| 14 | しない | 3 | しない | 3 | 0 | AV機器に精通した人に毎年チェックしてほしい | ある | ある |
| 15 | しない | 3 | しない | 3 | cdeo | 0 | ない | ない |
| 16 | しない | 5 | しない | 5 | 0 | 0 | ある | ある |
| 17 | スキップ | 5 | スキップ | 5 | ej | 簡単に利用できるビデオライブラリーの充実 | ある | ある |
| 18 | しない | 3 | しない | 3 | jq | 0 | ない | ない |
| 19 | しない | 3 | しない | 3 | 0 | 0 | ある | ある |
| 20 | しない | 5 | しない | 5 | fj | PAL/NTSCの変換機ほしい | ない | ない |
| 21 | しない | 4 | しない | 4 | q | 機材専門家の派遣を希望 | ある | ある |
| 22 | スキップ | 3 | スキップ | 3 | abdlo | 0 | ない | ない |
| 23 | する | 3 | する | 3 | kln | 0 | ある | ある |
| 24 | しない | 2 | しない | 2 | p | 0 | ない | ない |
| 25 | 無回答 | 0 | 無回答 | 0 | q | 0 | ある | ある |
| 26 | スキップ | 3 | スキップ | 3 | abdeajklno | 機材の円滑な修理を望む | ある | ある |
| 27 | しない | 5 | しない | 5 | abdefij | 0 | ない | ない |
| 28 | しない | 0 | しない | 0 | 0 | 0 | ない | ない |
| 29 | する | 4 | する | 4 | jng | AV教材開発ソフト(英文)ほしい | ない | ない |
| 30 | する | 4 | する | 4 | 0 | 教材ビデオを紹介してほしい | ある | ある |
| 31 | しない | 3 | しない | 3 | cjq | 0 | ない | ない |
| 32 | しない | 3 | しない | 3 | 0 | 0 | ない | ない |
| 33 | しない | 1 | しない | 1 | q | 現在OMPとスライド(C/P機)を活用している | ない | ない |
| 34 | しない | 2 | しない | 2 | p | 0 | ない | ない |
| 35 | しない | 4 | しない | 4 | q | PAL/NTSCのコンバータほしい | ある | ある |
| 36 | しない | 4 | しない | 4 | a | 0 | ない | ない |
| 37 | しない | 5 | しない | 5 | 0 | 0 | ある | ある |
| 38 | しない | 0 | しない | 0 | 0 | 新しいAV機器の資料を送ってほしい | ない | ない |
| 39 | しない | 5 | しない | 5 | dch | 0 | ある | ある |
| 40 | する | 3 | する | 3 | abdefghkl | 0 | ない | ない |
| 41 | しない | 0 | しない | 0 | 0 | 0 | ない | ない |
| 42 | する | 3 | する | 3 | bde | AVの長期/短期専門家に来てほしい | ない | ない |
| 43 | スキップ | 3 | スキップ | 3 | bedefklno | 0 | ない | ない |
| 44 | しない | 4 | しない | 4 | ca | ビデオ以外のメディア作成、メディア利用のネットワークを希望 | ある | ある |
| 45 | スキップ | 8 | スキップ | 8 | abz | 他のプロシエクトのビデオを紹介してほしい | ある | ある |
| 46 | しない | 5 | しない | 5 | bdc | 0 | ない | ない |
| 47 | しない | 4 | しない | 4 | bde | 0 | ある | ある |

各プロジェクトの組織化機能利用率状況

| 番号 | 地域 | 国名 | アライメント | 担当 | 放送行 | 家庭行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | 放送行 | |
|-----|-----|--------|-------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|
| 48 | アジア | フィリピン | 勿論安全衛生センター | 社会 | 0 | 10 | 0 | 0 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 49 | アジア | フィリピン | 食品医薬品検定センター | 農業 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 50 | アジア | フィリピン | 知地産産技術関係 | 農業 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 51 | アジア | シンガポール | 放送物産食研究 | 社会 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 52 | アジア | シンガポール | 人工センター | 工学 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 53 | アジア | スリ・ランカ | 国立医学研究所 | 農業 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 54 | アジア | スリ・ランカ | 人口情報 | 農業 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 55 | アジア | スリ・ランカ | 移物運送車センター | 農業 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 56 | アジア | スリ・ランカ | 移物運送車センター | 農業 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 57 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 58 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 59 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 60 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 61 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 62 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 63 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 64 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 65 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 66 | アジア | タイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 67 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 68 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 69 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 70 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 71 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 72 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 73 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 74 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 75 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 76 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 77 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 78 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 79 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 80 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 81 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 82 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 83 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 84 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 85 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 86 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 87 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 88 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 89 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 90 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 91 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 92 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 93 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 94 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 95 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 96 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 98 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 99 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 100 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 101 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 102 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 103 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 104 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 105 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 106 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 107 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 108 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 109 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 110 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 111 | アジア | ブルネイ | 移物運送車センター | 社会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

各プロジェクタの視聴覚機器利用状況

※添付資料：利用状況：機器の取組
コメント
：機材別：

| No. | スキップ | 利用状況 | 機器の取組 | コメント | 機材別 |
|-----|--------|-----------|---------------------------|---------------------------|-----|
| 48 | スキップ 5 | bd,leaq | 機材使用時の体制が必要、ビデオの視聴前-英語 あり | | |
| 49 | しない 3 | fip | 0 | | ない |
| 50 | しない 5 | bedf | 0 | | ない |
| 51 | しない 4 | 0 | 0 | | ない |
| 52 | しない 5 | 0 | 旧型のAV状と機材を押しつけた | | ある |
| 53 | しない 3 | np | 0 | メーカーに対して保守・修理等のサービスの充実を希望 | ある |
| 54 | しない 4 | b | 0 | | ある |
| 55 | する 3 | bedf,ikln | 0 | 市販AV教材の紹介/制作技術の指導をしてほしい | ある |
| 56 | しない 4 | np | 0 | | ある |
| 57 | する 2 | lq | 0 | | ある |
| 58 | しない 2 | p | 0 | | ない |
| 59 | スキップ 3 | fl | 0 | | ない |
| 60 | しない 4 | 0 | 0 | | ない |
| 61 | しない 0 | 0 | 0 | マックに関するノウハウをまとめてほしい | ある |
| 62 | スキップ 4 | fkj | 0 | 機材のシステム化、運用業務のネットワーク化の考慮 | ない |
| 63 | しない 4 | 0 | 0 | | ない |
| 64 | しない 6 | 0 | 0 | | ない |
| 65 | する 3 | kl | 0 | AVの短期専門家へ技術指導してほしい | ある |
| 66 | しない 0 | 0 | 0 | | ない |
| 67 | する 4 | 0 | 0 | 派遣前研修でのAV機器利用の課題をしてほしい | ある |
| 68 | しない 5 | bd | 0 | | ない |
| 69 | しない 6 | j | 0 | | ない |
| 70 | しない 3 | c | 0 | | ない |
| 71 | しない 3 | cd | 0 | 適当な市販の教材を送ってほしい | ない |
| 72 | しない 4 | dk | 0 | | ない |
| 73 | スキップ 5 | cde | 0 | 派遣前研修での人材プールがあるとうい | ある |
| 74 | しない 4 | 0 | 0 | | ない |
| 75 | する 4 | abjn | 0 | 現場でのソフトがほしい | ある |
| 76 | スキップ 4 | jq | 0 | | ある |
| 77 | スキップ 4 | bedf,lo | 0 | 新しいAV機器の資料を送ってほしい | ない |
| 78 | する 0 | 0 | 0 | | ない |
| 79 | しない 4 | f | 0 | | ない |
| 80 | する 4 | abl | 0 | | ない |
| 81 | しない 5 | q | 0 | マルチタイプのビデオデッキがほしい | ない |
| 82 | しない 6 | jq | 0 | | ない |
| 83 | しない 4 | bdik | 0 | ビデオ教材がほしい | ある |
| 84 | する 3 | bd,il | 0 | AVの短期専門家の派遣、CPのAV研修を希望 | ある |
| 85 | しない 0 | 0 | 0 | | ある |
| 86 | スキップ 5 | bd | 0 | 修理・保守の専門家希望 | ない |
| 87 | する 4 | a | 0 | AVの短期専門家派遣による独自の教材作成を望む | ない |
| 88 | しない 4 | lik | 0 | 16mmの英語版がほしい | ない |
| 89 | しない 4 | bedf | 0 | 現場での映像作成希望 | ない |
| 90 | しない 6 | pe | 0 | 機材のカタログ送付してほしい | ない |

各プロジェクトの状況(地域連携推進)報告書

| 番号 | 地域 | 国名 | プロジェクト | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
|-----|-----|------|------------|-------------------|---|----|----|---|----|----|---|---|---|----|---|---|---|
| 91 | 112 | アフリカ | タンザニア | キリマンジャロ州中小企業開発(Ⅱ) | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 92 | 113 | アフリカ | ザンビア | 職業訓練施設計画 | 5 | 21 | 2 | 1 | 23 | 42 | 2 | 0 | 0 | 5 | 1 | 2 | 0 |
| 93 | 115 | アフリカ | ザンビア | ザンビア大学医学部技術協力 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 94 | 116 | アフリカ | セネガル | 職業訓練センター | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| 95 | 117 | 中南米 | アルゼンティ | ラ・プラタ大学獣医学部研究計画 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 96 | 118 | 中南米 | アルゼンティ | 包装技術プログラム | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 97 | 119 | 中南米 | ボリビア | サンタクルス総合病院 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 98 | 120 | 中南米 | ボリビア | 家庭看護改善 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 99 | 121 | 中南米 | ボリビア | 水道開拓研究センター | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 100 | 122 | 中南米 | ブラジル | SENAI/SP 製造-トランプ | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 101 | 123 | 中南米 | ブラジル | カンピーナス大学消化器病 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 102 | 124 | 中南米 | ブラジル | 職業研究協力(II) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 103 | 125 | 中南米 | ブラジル | 野菜研究 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 104 | 127 | 中南米 | ブラジル | 鉱山公害防止研修センター | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 105 | 128 | 中南米 | チリ | 植物運送装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 106 | 130 | 中南米 | ドミニカ | 消化器病研究施設 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 107 | 132 | 中南米 | エクアドル | 国立産産局研究センター | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 108 | 133 | 中南米 | ホンジュラス | 看護教育強化 | 0 | 0 | 14 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 1 | 0 |
| 109 | 134 | 中南米 | ホンジュラス | 職業訓練研修センター | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 110 | 135 | 中南米 | メキシコ | 地震防災センター | 0 | 3 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 111 | 136 | 中南米 | メキシコ | 教育テレビセンター | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 18 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| 112 | 137 | 中南米 | メキシコ | 砂漠地域農業開発 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 113 | 139 | 中南米 | ウルグアイ | 農林技術強化 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 114 | 143 | 中南米 | ウルグアイ | 果樹研究 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 115 | 144 | 中南米 | ウルグアイ | プラスチック試験技術 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 116 | 145 | 中南米 | コロンビア | 傾斜地結露害農業開発 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 117 | 147 | 中洋州 | グアテマラ | 熱帯樹研究 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 118 | 148 | 大洋州 | フィジー | 稲作研究開発 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 119 | 149 | 大洋州 | バブア・ニューギニア | 森林研究 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 120 | 150 | 大洋州 | トンガ | 水道増進研究開発 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 121 | 151 | 大洋州 | ソロモン | 公衆衛生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 122 | 152 | アジア | マレーシア | ババア・ニューギニア | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 123 | 154 | 中南米 | アルゼンティ | 地理学研究所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

SENIE.TUL. 92年 8月20日 15:29

各プロジェクタの初聴かせ機部利用状況

| 項目 | 利用状況 | 機種の別 | コメント | 機材数 | |
|-----|------|------|----------|-----|----|
| 91 | しない | 2 | elp | 0 | ない |
| 92 | スキップ | 5 | bedeflg | 0 | ない |
| 93 | する | 5 | bed | 0 | ない |
| 94 | スキップ | 5 | beij | 0 | ある |
| 95 | しない | 0 | | 0 | ない |
| 96 | する | 5 | bfl | 0 | ない |
| 97 | しない | 5 | e | 0 | ない |
| 98 | する | 4 | kn | 0 | ある |
| 99 | する | 5 | b | 0 | ない |
| 100 | する | 4 | l | 0 | ある |
| 101 | しない | 0 | | 0 | ない |
| 102 | しない | 5 | q | 0 | ない |
| 103 | する | 4 | dkl | 0 | ある |
| 104 | する | 4 | bedfjk | 0 | ない |
| 105 | しない | 4 | | 0 | ない |
| 106 | しない | 4 | bejklq | 0 | ない |
| 107 | しない | 3 | dk | 0 | ない |
| 108 | する | 4 | fl | 0 | ある |
| 109 | しない | 5 | abcdefkl | 0 | ある |
| 110 | する | 6 | zlg | 0 | ない |
| 111 | しない | 5 | q | 0 | ある |
| 112 | しない | 4 | dk | 0 | ない |
| 113 | しない | 2 | chq | 0 | ない |
| 114 | しない | 4 | zq | 0 | ない |
| 115 | する | 0 | bedjk | 0 | ある |
| 116 | 無回答 | 0 | | 0 | ない |
| 117 | しない | 0 | | 0 | ない |
| 118 | しない | 4 | abdefkl | 0 | ある |
| 119 | する | 4 | bfgl | 0 | ある |
| 120 | 無回答 | 0 | | 0 | ない |
| 121 | 無回答 | 0 | | 0 | ない |
| 122 | しない | 1 | | 0 | ない |
| 123 | 無回答 | 0 | | 0 | ない |

資料2：アンケート用紙

視聴覚機器の利用状況に関するアンケート

1) 貴プロジェクトには下記の様な視聴覚機器は備えられていますか？

申請中のものも含めて該当するものの数量を書き入れて下さい。

| | 数量 | 放送用 | 業務用 | 家庭用 |
|----------------------|-------|-----|-----|-----|
| ビデオデッキ | ----- | () | () | () |
| テレビ受像器 | ----- | () | () | () |
| ビデオカメラ | ----- | () | () | () |
| ビデオ編集装置 | ----- | () | () | () |
| 16mm/8mmフィルムプロジェクター | - () | | | |
| 35mmスライドプロジェクター | - () | | | |
| 写真機 (35mmその他) | - () | | | |
| オーバーヘッドプロジェクター (OHP) | - () | | | |
| テレビスタジオ | - () | | | |
| 録音スタジオ | - () | | | |
| 暗室 | - () | | | |
| その他、印刷機等 | - () | | | |

※出来ましたら、申請中のものも含めてAV機材リスト (メーカー、型式、数量等) のコピー添付をお願い致します。

2) また、その機器導入の目的、及び見せる対象は誰ですか？

(該当するものに○印をつけて下さい。複数回答可。)

| | | | |
|----|---------------|----|---------------------------|
| 目的 | () 教材 1 | 対象 | () プロジェクト内のC/P 1 |
| | () 普及・広報 2 | | () プロジェクト外で行う研修コースの受講者 2 |
| | () 調査研究 3 | | () 相手国政府の職員 3 |
| | () 記録 4 | | () 一般大衆 4 |
| | () 放送 5 | | () その他 () 5 |
| | () その他 () 6 | | |

3) プロジェクト内で独自のソフト(視聴覚教材)の開発・作成を行っていますか?

(以下該当するものは○で囲んで下さい。)

いる ○ ・ いない ○

作成している方は、2~3、代表作品をあげて下さい。

4) 視聴覚機器の運用(機器操作・保守、ソフト作成等)を専任で担当する相手国側

C/Pはいますか?

いる () 名 ・ いない

その内訳は

| | |
|----------------|-------|
| ・プロデューサー | () 名 |
| ・カメラマン | () 名 |
| ・技術者 | () 名 |
| ・兼務等 () () 名 | |

5) そのC/Pは日本等でのAV研修(集団コース又はC/P個別)に参加したことがありますか?

ある () 名 ・ ない

6) 「ある」の場合、そのC/Pは現在も同業務を遂行していますか?

遂行している ○ ・ 遂行していない(別業務を行う・退職した) ○

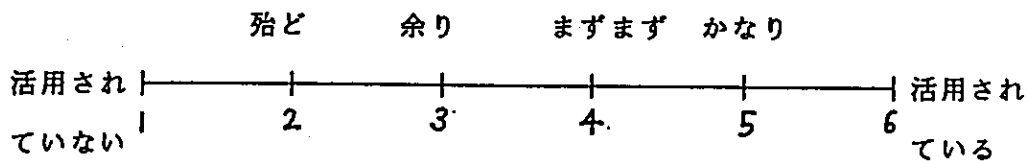
7) 視聴覚分野の指導の為、専門家(短期、長期)の派遣はありましたか?

あった ○ ・ なかった ○

8) 「なかった」場合、今後、派遣を要請しますか?

する ○ ・ しない ○

9) 現在のAV機器利用状況は… (○印をつけて下さい。)



10) 機器運用に関して若し問題がありましたら、お聞かせ下さい。

(幾つでも○印をおつけ下さい。)

- a () 機材が古くなって使えない。
- b () 部品の入手が困難である。
- c () 消耗品(テープ他)の入手が困難である。
- d () 機材の故障を修理出来る代理店がない。
- e () 周囲の環境(気温、湿度、埃、電圧)に問題が多い。
- f () ローカルコストが不十分で、機材の運用が困難である。
- g () 或る特定の機材が不足している為、全体がうまく機能しない。
- h () 再生・利用したい場所に電気がない。
- i () 機材盗難の恐れがあり、十分な利用が図れない。
- j () 現地語に翻訳された教材がなく、利用度が低い。
- k () 機材を操作出来るC/Pが育っていない。
- l () 指導出来る専門家が配置されていない。
- m () 研修を受けたC/Pが退職・転動してしまった。
- n () プロジェクト関係者の機材利用への理解が不足している。
- o () 機材の能力に見合うだけの仕事量がない。
- p () 視聴覚教材を使用する必要性が余りない。
- q () その他 ()

11) 視聴覚機器の有効利用を図る上で、どの様な支援を希望されますか?

12) 最後に、貴プロジェクト名 () 及び、
郵便物宛先 () を、御記入願います。

ご協力有難う御座居ました。

